2019年(令和元年)6月1日(土曜日)　第 370 号

わかちまん

わが町、わが店、この道一筋、出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ　http://www.akai-shinbunten.net　<発行所>あかい新聞店　武豊店/知多都武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP
半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525(代)　FAX 0569-29-4500
http://www.handa-cp.co.jp

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職
―自分ドラマつくろう― (98) 岡田清治

■プロフィール
著者：岡田清治（おかだ・せいじ）
1942年生まれ　ジャーナリスト（編集プロダクション・NET108代表）
著書に『高野山開創千二百年 いっぱんさん行状記』『心の遺言』
『あなたは社員の全能力を引き出せますか』『リコンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は『就職』『日本のゆくえ』『結婚』『夫婦』『インド』『愛知県』についてです。物語が進行する中で織り込むことを心掛ける、一緒に考えます。
FAX：0569-34-7971　メール：takamitsu@akai-shinbunten.net

[写真]生けるものはみな必ず死を迎える(著者撮影)

姪の就職2

るり子は東京百貨物をどういうわけか、評価していない。

「私なんかはあの息子夫婦とは合わないですね」

「どこが？」

「何もかもですよ」

「だけど食事もよく進んでいたのではないのか」

「食べるものがなかったから無理して食べたのですよ」

「嫌だったら残せばいいではないか」

「昔、人間ですからそれはできませんし、おなかも空いていたのですよ」

「やはり親孝行とするべきではないか」

「まあ、二人とも元気にしていたから安心はしましたけど…。この先わかりませんよ」

「考えられれば、お前には長い間、過ごしてきたな」

「本当に長いですね」

「俺は大病もしたしるり子は入院を一度も経験していないな」

「私は生命保険にも入っていませんので、入院は絶対にしないと決めていました」

「考えてみればほとんどが病気知らず、強引に結婚されたような感じでした」

「それでも離婚せずにいてきたな」

「仕方ないですよ」

「それだけ苦労したということか」

「両親と同居しなくてよかっただけでも、ありがたいと思わないといけませんね」

「それでも小姑は大変だったけど…」

真三は食事をすますと、食後のコーヒーを飲みながらるり子に話しかけた。るり子もファに腰を据えコーヒーカップを手に取った。

「お父さんがこんなふうになるとはおもわだたのですか」

「そうだな、まず親父がこんなる一週間前のことから話そうか」

るり子はコーヒーを淹すりながら真三の語る話に興味深げに耳を傾けた。

―親父がなくなる一週間前、僕は親父が入院している中央病院の主治医から呼び出された。その頃、単身赴任で九州にいた父が、相手が主治医だから休暇をとって病院にかけつけた。

「次男のかたですか」

主治医が真三を睨越しに見ながら声をかけた。年齢は五十に届くか、その手前の感じで落ち着いた様子で、椅子に腰を下ろして「そうです」

真三は何を告げられるのか、多少、不安を覚えながら主治医の目を凝視しながら対面の椅子に腰を下ろした。

「お父さんに聞くと、すべて次男さんに話してほしいということでしたので、急なことで申し訳ありませんでしたが、お父さんの容態について説明しておきたいのです」

「わかりました」

真三は突然のことでその準備ができていなかったが、一人で聞くしかないと思い、諦めも声をかけずに病院へ直行した。

主治医はしばらく沈黙を保ち、真三に顔を向けたり、机の上のパソコンの画面に視線を向けたりしていた。

やがて真三の方に顔を向けて話しかけた。

「実はお父さんの肺に水がたまり、もう手術でどうこうできる状態ではありません」

「どういうことには、そう長くないと…」

「だから、最期は楽に看取られた方がいいと思いますよ」

融和な言い方だが、選択の余地がない強い意志を込めるものを感じた。反論するにもだからない真三は黙ったまま、長男が医師だから、対応してくれたら助かるのにと思った。

主治医が真三を指名してきたから仕方がないと悟ったが、同じ医師でも気心を知っているかいとかえって難しいこともある。

病院に入る前に、兄弟の健太郎に電話をされたが、仕事の手が外せないので、真三に任せると返事をしてきた。主治医からの話を聞いた後、親父のいる病室に入ると、健太郎の女房がベッドの横の椅子に腰をかけていた。

ごぶさたしています。健太郎から電話がありましたが、兄さんが主治医に会いに行くので、手伝うように頼まれました」

「そうですか。苦労さんです」

「お兄さんそう遠いところから大変でしたね」

「主治医に呼び出されてね。どうしても来てほしいと言われまして」

「そうですか」

「自宅で看取られたいと言われました」

「お父さん、何と答えないそうですよ」

「そうですか。今日、家に連れて帰るつもりです」

「お父さんが自宅に帰られるのは、いいことですよ」

この頃はまだ、弟夫婦は離婚していなかった。

真三が相当の看護師に囲まれのあいさつをしている間、健太郎の女房はベッドを乗せた車椅子を押して玄関に向かった。

50メートルほど先の父の姿を見て、唖然とした。これまでの体型の半分ぐらいだ。何も食べないということにただかな衰弱ぶりだと思った。

父は死を意識しているのではないか、日本では安楽死が認められていなので、死にたくても死ねない。何も食べないのは、食べる力がないのではない、自分なりの安楽死の準備を進めんのだろうかそれにしても入院のときに痩せられるのか、テレビで飢餓に苦しむアフリカの赤ちゃんの映像を見たことがあるが、ガウンを着ていてもはっきりと痩せた体型がわかる。健太郎の女房は車椅子を止めて真三が追いつくのを待った。

「そうでしたか。何も食べていないとは、さぞかし驚いたでしょうね」

「そうですね」

タクシーが待機していた。

「私もご一緒しましょうか」

彼女は「いいですよ、あとは乗るだけですから、ご苦労様でした。健太郎によろしくお伝えください」

「はい…」

真三は後部座席に父親と並んで座った。

父親の体を支えるようにして「何もしゃべることなく自宅まで約五十分ほどで着いた。玄関にるると、お祝い気配で待っていた。

「今日、退院しました」

「大丈夫なの」

抱えるようにして一緒に真三は父親を籐椅子に座らせ、自分も対面に座った。

「親父よかったな。現役時代は労もあったが、最後に大きな花を咲かせたよかったな」

「うん…」

親父を見るとうつむいて、静かに涙を流していた。

「親父よかったな」

「親父、元気出しやがばっやと励ましの言葉をかけたいところだが上手な言葉が出てこない。

最期まで生きるということ、一番若手であった長い間、開口休業で苦しんでいた。

文学賞もらった直後ないしその効能は薄れる。親父の場合は、受賞が戦時中で、しかも二十年以上経っていたから、とうに世間からは忘れられている。

私の出会った作品 (36)

杉本武之

(その外国映画 その2)

◎"初恋のきた道"

去る4月5日(金)、NHK BSプレミアムで"初恋のきた道"が放映されました。もう3度も観た映画ですが、その日は朝早から、始まるのが待ち切れませんでした。"また泣くだろうな"と思いながら観ていました。案の定、後から後から涙が出てきました。

貧しい村で盲目の祖母と暮らす18歳の青い娘が、新しく赴任して来た20歳の青年教師に恋をする、というだけの単純な物語です。しかし、その青年教師の一途に優しい心を持つ少女の姿に心が揺さぶられ、涙が出てしまうのです。その対象が何であれ、一途に取り組む姿勢を見たら、聞いたら、読んだりすると、私はすぐ涙くんでしまうのです。

この純粋な恋を描いた"初恋のきた道"は、1999年に中国の映画監督チャン・イーモウ(張芸謀)によって作られました。同じ年にあの名作"あの子を探しに"も作られました。失踪した教え子を必死に探す臨時教師の若い娘の行動を描いたこの映画も私は大好きです。

チャン・イーモウは1951年11月に中国の西の安に生まれました。1982年に北京電影大学を卒業すると、撮影監督、俳優と映画業界に入りました。その後、監督としてのデビュー作"紅いコーリャン"(1987)によって国際的にも名声にとどろきました。

"初恋のきた道"は、自黒の画面で始まります。

父親の死を知らされた息子が村に帰って来ます。父親の葬儀の準備のための隣の町への移動の間に、息子は母親から父親との出会いの物語を聞かされます。

そこに登場する村の娘の何という可憐さ！何という純粋な心情！男である青年教師を慕い続ける娘の気持ちは、村の人々にも理解され始めます。そして、二人の結婚は認められました。

画面は再び白黒になり、教え子たちが交代で恩師の遺体の入った柩を交代で運ぶ場面に代わります。知らせを聞いて、100人を超す教え子たちが参集したのです。そして、無償で遺体を担いだのでした。

数日後、教師ではない息子が、父親が教えていた教室で、一日だけ、父親が村に来て初めて書いた作りの教科書で授業をします。それを知った老いた母親が聞きにやって来ます。

出会い、結婚してからの40年間、彼女は毎日のように夫の授業を聞きに来ていたのでした。最愛の夫が作った教科書を読む息子の声に見どころのある名作に仕上げられた教師、亡き夫を偲ぶ無言で聞いている母親。

彼女は、亡き夫の教科書を読むのが何よりも好きだったのです。

白黒の画面に、娘さんの若々しく溌剌とした顔がカラーで重なります。

急行列車が通過する、汽車になる女性を描いた映画は滅多にありません。

なお、張芸謀は、北京オリンピックの壮麗な開会式と閉会式を演出しました。

◎"活きる"

この86分の比較的短い中年男の恋愛物語は、1994年に イギリス の名匠デヴィッド・リーンによって作られました。

週に一回、木曜日だけ町の病院で働く医師と、木曜日にだけ映画を観たり買い物に町に出掛ける平凡な主婦が、ふとしたきっかけで知り合い、親しくなり、互いに愛を抱くようになる……。

構成によって、互いに家庭を持ち、子供もいる中年の男女の恋愛という珍しくもない単純なストーリーが先に見どころのある名作に仕上げられた、著名な劇作家ノエル・カワードの原作をリーン監督が脚色した映画。

二人は木曜日ごとに6回逢って、そして別れます。

——最初の木曜日、駅のホームに立つローラの前に急行列が通過する。汽車の煤が顔に入る。ホームの売店で、ただ恋愛小説を買おうとしたローラに、その目に入った煤をベンチカーで取ろうとする。

次の木曜日、ローラ夫妻は、いつもの様に夫婦で映画を観た後、レストランで医師と再会する。

三回目の木曜日。二人で映画を観る。最後に愛を感じるようになる。

知り合って14日目の木曜日、互いに愛を認め合いキスを交わす。

5回目の木曜日。ドライブを楽しんだ後、アレックが友人のアパートにローラを誘う。不意に入った人が帰宅したと嘘をついたアレックが、逃げ出す。急いで追いかけて来たローラは裏階段から出ようとするが、ドアが開かない。

ローラは裏階段から出ようとするが、ドアが開かない。

ローラは裏階段から出ようとするが、ドアが開かない。

知多の哲学散歩道 Vol.15

「鈴渓義塾物語・溝口幹の思想③」

久田健吉（哲学研究者）

しかし幹には夢がありました。命題とつくる「鈴渓義塾」の夢です。小鈴谷村を村民とともに豊かにしていく村づくりのための鈴渓義塾の夢。そこで幹は泰山に中心出来ず。「先生、やはり鈴渓の郷の教員になります。」それを聞いて、泰山は、「鳴呼、君は郷党の師となるか」と言います。この言の中には泰山の万感の思いが込められているように思います。そして幹の「先生、儲きて言なし」の無言の中にも。

師範学校の目標はいかに先生を養成することができで、幹が卒業して鈴渓義塾の先生となることは泰山にとっては本当は喜ばしい事なのです。しかし泰山は幹にこの師範学校でまだ頑張ってほしかったのです。そのため、幹の中止を聞いてムから喜べない自分に恥じ入ります。「本当は喜ぶべきなのに、残念などと言ってごめん。改めて言おう。おめでとう。頑張って下さい」と。これを聞いて幹は何も言えず「先生、ありがとうございます。頑張ります」と心で誓い、無言で別れたのだと思います。

この部分を読むと、私はいつも胸に熱きものを覚えます。私には、この離別の会話は溝口幹が盛田命頑の薫陶に応え盛田命頑とともに歩む決意の会話と思え、そしてこれが結果として小鈴谷村を「徳これ香る」郷にしていくことになっていくのです。

さて、溝口幹の教育がどれほど素晴らしかったか。『溝口幹先生小傳』は次のように伝えています。

> 数十年に及ぶ鈴渓義塾において先生の門弟子は千有余になるが、その中で、大学（帝国大学）卒業生12人、専門学校（旧制）卒業生24人、中等学校（旧制）卒業生93人、大学在学の者3人、実業家・地方有力なる人士数百人を輩出している。半田・大野以南一帯の有力なる人士にして先生の徳風を蒙らざる者稀なり。

この引用文で、特に「有力なる人士」の語に注目してほしい。この語は金を儲けた人を指す語ではありません。村々で人々に対し有力な働きをしている人を指しています。鈴渓義塾は村々のリーダーとして活躍している人を多く輩出していきます。全くの納得です。

では、溝口幹自身は自らの教育をどう語っているのでしょうか。1908年の『溝口先生領徳記念一周年鈴渓同窓会報告書第12回』に出ています。

> 我が校より出でて今日既に立派なる位置にあられる方々は、みなその人々の器量にして私の決して与えたる所ではありません。
>
> 何と謙虚なことばでしょうか。この中には教育の真実が語られています。この語からは「初等にて人間の土台を築いていかねば、人は持って生まれた器量を磨いて成長していくという確信を持ち、それを磨く努力はその人にあって、その成果はその人のものと考え、私は卒業生たちの成長を喜ぶに留めたい。」という思想が見られます。私は学問の真実の道を説いた村は頑張ったのは皆さんで皆さんが偉いのです。
>
> 溝口幹は小学校教員として努力しただけではありませんでした。深く学に志す者には私塾と称し夜自宅に招き更に指導したのでした。その成果は先に示した通りです。
>
> 溝口幹については未だまだ書きたいことがたくさんあります。特に細井平洲との関係はまだ充分には書けていません。卒業生たちが幹先生を讃える語に「師表」という語を使っています。幹が学問を語るに、細井平洲の言でもって語ったからでしょう。細井平洲の『嚶鳴館遺草』や『嚶鳴館遺稿』にはこの「師表」という語が頻出しています。師表の意味は深長です。
>
> 以上で、村民とともに生きた盛田命頑の期待に応え、村民とともに生きた溝口幹による鈴渓義塾物語を終えることにします。

知多の動植物雑記(一)

原　穣

（昭和八十三年十二月号）

知多半島の地を川にするため、学生生活最後の卒業論文として纏め、記録として残してから、もう二十五年の歳月が過ぎました。その記録によると、当時知多半島には、十三科三十二種類の淡水魚がすんでいましたが、その後、環境の変化や公害問題もあり、絶滅した魚の生息地は、その数が減ってしまいました。

しかし、昭和十七年、知多半島に愛知用水が完成し、木曽川の水が流れ込むようになり新顔の魚が入ってきました。

昭和二十七、八年頃には、スゴモロコやタイリクバラタナゴ、昭和五十年頃になると、大型種のコイが、さらに九、六年後には、半田市や衣浦町の溜池でブルーギルやブラックバスが釣れるようになりました。

ブルーギルやブラックバスは、どう猛で、小魚やエビを食い荒らします。豪快な釣りを楽しむにはいいけれど、淡水の魚をめでる私は、悲観でいるのです。

でも自然のなかはすごいもので、日々たくましく、絶えず変化をしながら生きている姿を時折り、新顔の魚が現れてくれます。

カワアナゴもその一種で、今年の夏の初め、半田市の神戸川下流で、高校生の榊原圭吾君が採集しました。

カワアナゴは、水槽の中でも中は砂の中にもぐり、夜間えさをとるために活動します。頭から背にかけては平らで、通常は背面が淡褐色、腹側は暗褐色ですが、周りの環境によって全体が暗色

わが家のニューフェイス

伊藤結菜(2才)　綺香(4才)　武豊町

写真・文　伊藤真弓

こんにちは。妹の結菜です。私はお姉ちゃんが大好き♪いっぱい遊んでくれるし、とっても優しいの。好きな食べ物は、トマト♪バナナとおにぎりも大好きだよ。もっと大きくなって、早くお姉ちゃんといっぱい食べなくちゃ。お姉ちゃん、ずっと仲良く遊ぼうね。

愛と My Family

三澤陽依(1才4ヶ月)　常滑市原松町

写真・文　三澤朋恵

出来たよ。私のお母さんは、私がお腹の中にいる時、電車や街中で沢山の気遣いと優しさのつまりが「私も新しい土地でお友達を沢山作ってお友達の優しさに気はいだらちゃんとありがとうの一言を伝えられたらいいな。

初めまして。私の名前はひよりです。昨年常滑市に引越をして、新しいお友達も

短時間で高収入!!空いた時間で収入アップ!! 他のお仕事との掛け持ちもOK♪

スタッフ大募集!

毎朝、決まったお宅に、スクーターや自転車で新聞を配達する仕事です。未経験でも大丈夫◎ 実働1時間程度。道に詳しくなくても、配達先は毎日同じなのですぐに覚えられます。おひとりで完璧に配達業務をこなせるようになるまでは、先輩スタッフがしっかりサポートするので、安心してご応募下さい♪

正社員:月給/200,000円~ パート:時給/900円~

業務内容
①配達員(朝刊または夕刊) ②事務員 ③スタッフ(集金担当)

勤務時間
①AM2:30~AM5:00(朝刊) PM3:00~PM5:00(夕刊)
②AM9:00~PM5:00
③応相談

勤務日数
正社員 週休1日 パート 週3日~OK

女性スタッフ活躍中!!

※詳細は担当 赤井までお気軽にお問合せください

中日新聞 あかい新聞店 武豊 0569(72)0356 常滑 0569(35)2861

ぼくもわたしも新聞デビュー
中日こどもウィークリー
ぼくのわたしの新聞で「考える力」、「集中力」を身につける!
親子で読んで楽しんで学べます!
バラエティー スタディー ずかん チャレンジ ニュース ファミリー 歴史マンガ
一緒に学ぼう♪

毎週土曜日のお楽しみ! 月額463円(税込)

大切な思い出がふくらむ新聞、贈ってみませんか?
思い出新聞
明治39年11月6日以降のご希望日が選べます
※紙面データがない場合(新聞社での お届けとなります)や休刊日の場合は夕刊または翌日朝刊となります
お誕生日、ご結婚、成人式、父の日、母の日、敬老の日などのお祝い、記念品にどうぞ
中日新聞販売店でのお申し込みがお得!!
1面と社会面(2枚セット・送料・税込) 通常価格900円 → 600円
1面または社会面(どちらか1枚 送料・税込) 通常価格600円 → 400円
ご自宅までお届けいたします

「中日春秋」で学力アップ!? 人間力もアップ!?
「中日春秋」の書き写しは学力アップ・人間力アップの第一歩です。
総合的学力 …すべての教科の学力アップの土台に!
応用的学力 …問題を正確に把握する力・解答の解説を適切によみとる力
基礎的学力 …読解力・語彙力・集中力・注意力アップ
日常的習慣 …「中日春秋」書き写しよむだけでも○! 書き写せば◎!
人間力アップ!!
中日春秋書き写しにチャレンジしよう!
中日春秋書き写し専用ノート 1冊(1ヶ月分) 108円(税込)

各種お問合せは あかい新聞店まで 武豊店☎72-0356 常滑店☎35-2861